

「VICTORY！」は、『湘南ベルマーレ』というJリーグクラブのホームタウンに住むみなさんに、サッカーを通じてより多くの人とふれあい、地域への思いを深め、スポーツの楽しさを体感していただきたい。そんな願いを込めてASAがお届けする情報紙です。

企画・制作 / 株式会社 朝日新聞経営研究センター 協力 / 株式会社 湘南ベルマーレ



## 湘南スタイルを信じて J1で旋風を

FW No.17 **馬場 賢治** Kenji BABA



地元平塚で生まれ育ち、小・中学時代をベルマーレの下部組織で過ごした「平塚の男」が今季、ベルマーレに帰ってきた。持ち前の明るさ、闘志あふれるプレーでチーム最多の9得点を挙げ、ファンを魅了。しかし、9月後半に第5中足骨を骨折してチームを離脱。11月、昇格を決めた最終戦のピッチにもその姿はなかった。

### 子どものころのベルマーレ

サッカーを始めて、ベルマーレを知ったころはまさに黄金時代で、すごい選手ばかり。みんなが憧れの存在でした。試合もしょっちゅう観に行っていたけれど、競技場は満員でチケットがなかなか買えないような時代で、痺れるようなすごい試合を何度も見せてもらいました。まわりがヴェルディだ、マリノスだと言っている、僕は断然ベルマーレが好きだった。

競技場のスタンドで、おじさんたちが選手に向かって飛ばす野次を「あんなふうと言われる選手には、なりたくないなあ。でもつまらないミスをしたら、野次られるんだろな」なんて思いながら聞いていました。そしてそれは今でも思っています。

その後、親会社の撤退でクラブが存続の危機に陥り、そしてJ2に降格。大好きだった選手たちが抜けてしまう淋しさも見てきました。「給料の高い選手は、いなくなってしまう」。まわりの大人たちからそんな話も聞いて、子ども心にプロスポーツの厳しさを感じていました。

もちろん今、ベルマーレを応援してくれる子どもたちにはそんな淋しい思いをさせたくありません。「地元でベルマーレがあってよかった」。みんなにそう思ってもらえるクラブであり続けたいと思います。

### 来季、J1で戦う上で大切なこと

今季ベルマーレに入団して、初めてJ2でプレーしました。そこで感じたのは、J2だって大きなレベルの差があるわけではないし、フィジカルも決して劣っていない。違うのは、1本のパスが通せるか、通らなくて相手ボールになるか、そういう細かい部分の精度。そして1対1の強さだと思います。

2010年にJ1で戦ったときは、寺さん（寺川能人選手）や阿部ちゃん（阿部吉朗選手）のようにJ1の経験が豊富な選手がいました。彼らは難しい局面でもボールを失う回数が少なかったし、よく得点にも絡んでいた。そういうJ1経験者がしっかり周りをサポートし、みんなもそれに速く順応していくことが重要です。

経験のない若い選手にとってJ1は、巨大なスタジアムにサポーターが溢れ、相手も有名選手で驚くことばかり。「闘莉王がいる！！」って感じだと思うんです（笑）僕もそうでした。「（中村）俊輔さん…」って、身体が固まってしまった。そういうのはだいたいプラスに働かないですね。いざ試合が始まったときには、相手がどんな選手でも関係なくプレーできる強いメンタルも必要。

ベルマーレは可能性を秘めた、すごく伸び代のあるチームだと思います。チームワークは抜群だし、フィジカルも申し分ない。これからも監督の指導のもとでふだんの練習から100%やりきれば、技術的にももっと成長できるしレベルも上がるでしょう。あとは来季、J1でも、

『超攻撃的な湘南スタイル』を信じてやり続けることです。少し勝てなかったりすると「この戦術では（残留）できないのではないかな？」と不安になったり、疑心暗鬼になってしまいがちです。でも決してマイナスに考えず、強気な姿勢で一年間自分たちのスタイルを信じて貫くこと。それが、このチームがJ1で生き抜いていくために最も大切なことです。

### 2012 一番印象に残った試合

印象に残った試合はたくさんあるけれど、1つと言われたら、最後の町田戦になります。リハビリ中だったのでスタンドから観戦していたのですが、まさに今年の集大成のような試合だった。勝たなければ（自動）昇格は叶わなかった。「とにかく勝ってくれ」と願いながら観ていました。昇格も決まったし、結果的に絃司さん（坂本絃司選手）のラストマッチになり、より印象深い試合になった。内容は湘南らしいやりたいサッカーが全部出せて「最後にこんな試合ができるなんて、ベルマーレってすごい」と思える完璧なものでした。自分がピッチにいないのにあれだけいいゲームをされて、嫉妬と悔しさもあります。もちろん今年やりきれなかった悔しい思いは、来年にぶつけます。（インタビューは2012.12.10に実施）

### Profile

馬場 賢治（ばば けんじ）FW No.17 177cm/70kg  
1985年7月7日生まれ（27歳） 神奈川県平塚市出身  
金田小-金旭中学校-桐光学園高校-近畿大学  
ベルマーレ平塚ジュニア、Jr.ユースとベルマーレ育ち。  
2008 ヴィッセル神戸でプロのキャリアをスタート。2010年には、J1に復帰した湘南に期限付き移籍でプレー。翌年は神戸に戻るも2012、地元湘南に完全復帰。攻守にわたりハードワークし、得点への意識も高い。シーズン9得点は自己最高だが、9月下旬骨折により離脱し、今季は28試合の出場にとどまった。

### episode

#### やべっちFC出演

昇格が決まってチーム全員で「やべっちFC」に出たときに、最初番組スタッフの方に「来年は（J1で）よろしく願います」と言ってくれ、と言われたんです。でもそれは、ちょっと違うな、と思った。僕たちはJ1に「お邪魔します。よろしく願います。」って行くわけじゃない。ピッチの上では、相手がどんなビッグチームでも対等。来年はJ1でベルマーレ旋風を巻き起こすつもりです。

#### 馬場選手からサポーターにリクエスト

僕はサポーターのみなさんにすていかっこいい応援歌を作ってもらったんだけど、来年は猪狩佑貴にも応援歌を作ってもらえるかな。あいつは、いつもチームのため、地域のため、を考えて動いている。猪狩とは同じ地元出身で一緒に頑張ろうという気持ちが強いんです。

### 今季を振り返って

開幕してからケガで離脱するまでのあいだは、プロになってから一番試合に出させてもらって、その充実感と長く試合に出続けることのむずかしさを体験し、学びました。開幕当初は、出場する・しないで気持ちの浮き沈みが多少あったけれど「練習の調子を見て次の試合のメンバーを決める、絶対的なレギュラーはいない」という書 貴裁監督のやり方を理解してからは、とにかく100%で練習に取り組むことに専念できるようになりました。結果的に9得点はチーム最多だったけれど、J2でももっと多く得点している選手はたくさんいるし、決して誇れる出来ではない。自分ではまったく満足していません。

ケガをしてからは、勝てなくてみんなが苦しい思いをしているときに、ピッチにさえてない自分に対して、悔しさや情けなさでいっぱいでした。これまでもケガによる2ヶ月くらいの離脱はあったのですが、今季のように（昇格のかかった）チームの大事な時期にサッカーができないのは初めてです。「シーズンの最後に試合に出ていることの重要性」を強く感じました。昇格争いをしているなかで絡めなかったというのは選手としても残念でした。チームにも、「全員で闘うチーム」なのに戦力が1人欠けるというのは大変申し訳なかった。

そのなかで『チームのために』という気持ちを持ち続け、出来る限りのことをしたいと思っていました。サッカーはできなくても口は動くのだから、ちょっと元気のない選手に「自分らしいサッカーができていないんじゃないか、チームも大切だけれど、若いんだからまず自分をどうだせるか考えたほうがいい」など、自分の経験を踏まえて話をしました。元気なときは自分のことで精いっぱいだったのが、十分に周りを気配る余裕ができたので、チームをサポートすることを最優先に考えました。

